

時報新報

郵遞局認可

東京 明治十七年四月十一日 星期日 第六百三十三號 日曜日 休刊 定價三錢

叙任

○明治十七年三月廿四日
任工兵大尉 工兵中尉從七位勳六等 伊丹 正庸
全 工兵中尉從七位 上利 芳三

時事新報

文明世界ノ競争ハ人ノ油斷ヲ許サズ

文明ノ進歩ハ弱モ及ブベカラズ時勢ノ變化ハ奔流ノ水洑
リモ爾ホ急ナリ去年ノ新發明ハ今年ノ陳手段ト爲リ昨日ノ
珍說ハ今日ノ廢論ト爲ル農工商政治學術ヲ論セズ今ノ活
潑無比ノ世界ニ在リテハ其性質ヲ變化セザルモノナシ
農事ニ於テハ穀價ノ一上一下ヲ隨テ地價ノ上下スルハ農
家ノ生命ヲ伸縮スルモノニテコレニ處スルノ法ノ困難ナ
ル凡庸知識ノ能ク堪ユル所ニアラズ然レモ農業ハ必ズモ
稻作ニ限ルコトアラズ唯地力ニ應ジテ其利ヲ遺サズルニ在
ルノミ誰カ料ヲ吾ハ米價ノ下落ヲ痛恨シテ徒ラコト海命ヲ歎
スルノ際ニ隣人ハ早ク既ニ稻田ヲ變テ桑田ト爲シ米價下
落ノ風雨ヲ知ラズシテ春蚕ノ日ニ肥ルヲ樂ミツ、アラント
ハ又商賣ノ事ニ於ケル古來日本ノ商人ハ其商域ヲ掌大ノ日
本島内ニ限リ有無難通ノ運ニ遲緩ニシテ其及ブ所ノ甚ク狭
キ固ヨリ以テ文明ノ商業ト名クルコト足ラズ開港以來漸ク世
界ノ空氣ニ觸レ漸ク舊法ヲ改ムルノ必要ヲ感知ラズ識ヲ
ズノ際ニ奮人去リテ新人現ハレ商賣社會ノ面目復テ昔日ノ
幼稚暗黒ニアラズ今日ノ郵便ヲ取扱フ人ハ昔日ノ飛脚屋ニ
アラズ今日ノ蒸氣船ヲ運轉スル人ハ昔日ノ船持ニアラズ今
日ノ銀行ヲ支配スル人ハ昔日ノ兩替屋ニアラズ今日ノ活版
印刷業ヲ營ム人ハ昔日ノ書物問屋版木師ニアラズ何レモ皆
舊人ガ舊業ヲ轉シテ目カラ新業ニ遷リタルモノアラズシテ新
人ガ新業ヲ興シテ舊人ニ代リタルモノナリ試ニ今日ノ商賣
社會ヲ見ヨ活潑有爲ノ紳商トシテ人ノ名ヲ知ラズ、者ハ數
百年來ノ商家ニ生レテ古風ノ教育ニ成長シタル人ニアラズ
シテ自己ノ才能ヲ新知識トシテ以テ置身新業ニ從事シタル人
ニ非ザルハナシ商賣社會ノ變化モ亦甚ク大ナリト云フベキ
ナリ然レモ今日ノ變化ハ決シテ其極度ニ達シタルモノニア
ラズ今日ヨリ數年ヲ出テズシテ鐵道ノ敷設漸ク國內ニ偏テシ
朝ニ東京ヲ發シテ夕ニ大阪ニ到リ翌朝ハ早ク既ニ長崎ニ在
リテ商務ヲ辨スル時節トナリ隨テ又外國ノ商人モ内地難居
難手次第何レノ都邑ニ在リテ業ヲ營ム自由自在ナル時節
トナルハ商賣社會ノ變化ハ果シテ何程ノ程度ニ達スベキヤ
實ニ我々ノ想像ニ及バザル所ナリ此時ニ至リテハ試ニ
商賣社會ノ有様ヲ通覽セバ我々ハ如何ノ實況ヲ見出スベ
キヤ明治十七年ノ今日孤城落日ノ舊商人ハ勿論目下方ニ
旭日中天ノ勢アル新商人ト雖モ何時カ商賣社會ノ表面ノ下
ニ沈淪シ盡シテ其後影ヲ留メズ東京大阪等ノ中心市場ニ
屹立シテ内外ノ商權ヲ把握スル各種ノ商社ハ悉ク皆今日ノ
商賣社會ニ名ヲ知ラレザル卑賤未熟ノ丁稚輩ガ支配スル所
ナランヤモ知ルベカラザルナリ又學術工藝ノ事ニ於ケルモ

日ニ進ミ月ニ改マリ三年前ノ藝術ハ以テ今日ノ人事ニ通用
スベカラズ去年ハ門前市ヲ成スノ圖畫醫師モ今年ハ忽チ玄
關ニ畫羅ヲ設ケ隣家ノ少年醫生ノ得ヤトシテ奔走繁榮スル
ヲ羨ムモアラズ今日ハ博學宏才ノ美名遠近ニ喧ケカリ大
博士モ今日ハ小學生徒ト其學識ヲ等フノ辱ヲ忍ブアツモアラ
ン昔日ハ海陸萬方ノ軍兵ヲ叱咤セシ將軍ニシテ其謙遜ノ淺
薄ナルヲ以テ今日ノ水火夫築城卒ノ用ニシテモ充ツベカラズ
不用ノ廢物トシテ永ク其老朽ニ任スルコトモアラズ十年ノ若
學蒸氣機ノ學術ヲ學ビテ未ダ成ラズ忽チ電氣學者ノ追ヒ
及ブ所トナリテ其足ヲ踏ムレ空ク人後ニ殿若クモアラ
ン一度學ビ得タル學術ハ決シテ生涯ノ寶ニアラザルナリ又
彼ノ政治社會ノ事ニ於ケル最モ人爲ノ規則ヲ以テ天然法ノ
作用ヲ制シ得ルモノナリト云フト雖モ尙クモ文明世界ノ中
ニ存在スル限リハ全ク優勝劣敗ノ約束ヲ止ムルコト能ハズ
々々ノ變化ヲ促カザル時ノ令尹新應ノ門監ヲ拜命スルノ奇談
モアラズ實ニ人世ノ類ニ少ナキヲ斯ノ如ク今日ノ文明世界ノ
人ト爲リテ世ニ處スルノ道ヲ過ラザラントスルハ蓋シ難中
ノ難事ナリト云フベキナリ

然ルモ今此文明世界ノ中ニ在リテ空シク落後ノ人トシテ
ントスルハ農工商士學術社會ノ人タルヲ問ハズ一ニ唯其人
平生ノ心掛ニ在リテ存センノミ世界ノ大勢ヲ通觀シ己レノ
一身ヲ顧ミ片時モ油斷セザルノミ油斷ハ實ニ身ヲ亡ボスノ
大敵ナリト知ルベキナリ世間少壯ノ子弟動モスレバ小成ニ
安シ小成ヲ樂ミ敢テ勇進ノ氣象ニ乏シクシテ寡欲足レテ
知ル者比々皆然ラザルハナシ此輩ノ口吻トシテ世間他ノ時
勢ニ後レテ彷徨、路ヲ迷フノ老大方ヲ馬當シ其無氣力ヲ
スルコト千人皆同音ナリト雖モ焉知ラシ此少壯輩ニシテ
早ク既ニ其名ヲ時勢後レノ名簿中ニ記入セテアラントハ
時勢變遷ノ急激ナルハ眼晴ヲ轉スルノ暇モアルベカラズ尙
クモ永ク文明世界ノ人トシテ存スル心アル以上ハ彼等少
壯ノ身ヲレバトテ決シテ油斷スベカラズ死シテ棺ヲ蓋フノ
日マデハ苦學敗ニ雖モスルノ人ニシテ努力ヲ終リテ報酬ヲ享
樂スベキ身ニアラズト覺悟スベキナリ

電報

○四月八日龍驤發 英國下院に於ては投票權擴張議案の第
二次會を終へたりパルチオン氏は政府方に投票し政府方は一
百卅點の多數を得たり

雜報

○射的天覽 前載ノ記載セシ如ク 聖上には昨日午前八時
半赤坂飯倉居御出門に於て向テ射的場へ成らせ給ひ御陪乘
は德大寺侍從長供奉は藤波、岡田、片岡比三侍從より全九騎
四十分御着遊ばされければ御先着の有栖川左府、伏見、小
松、北白川の四親王、山田、川村兩參議、鍋島式部頭、津海軍
大輔其他當日射手は將校、宮内省官吏等は射的場門内に迎

へ奉り夫より散けの玉座へ着せ給ひて暫く御休
み射的を始め全十一時卅分彌生社へ渡らせ給ひ
食させられ一騎より再び該場へ成せられ逐々
されて黃昏時運幸在せ給ひたり當日の射的之
に區分し甲乙之特別(勅任以上)に限る(丙は甲乙
より劣る後兩種中より優等射手を撰拔せし者より
尤多き者を一等とし以下順次四十五等迄は皆
ものなり賞品は金銀時計其他紅白縮緬等賜り
○行幸 來る十四日 聖上には吹上御苑へ行幸
て宮内官吏及華族等の競馬を天覽あるべき旨又
廿日の兩日は上野公園内ニ於て開設の第二繪巻
花御遊覽行幸猶又來廿四日は千葉縣下習志
行する近衛諸隊の對抗運動を天覽として行幸あ
れも昨日御内沙汰を仰出されしと承はる
○山階宮 同宮定曆王が英國へ渡航せらるる日
紙上へも記載せしが愈來る廿八日頃と御治定相
又右留別の宴みや昨日は富士見町御自邸へ各
貴顯數名ヲ招かれ盛んなる饗應を盡されし
○御覽代奉納 熊本縣官署中社八代宮(今回御
納遊ばさるる)に付式部七等馬場田原重氏は謹送
日出發したり
○清國皇叔母薨 清國今上帝の皇叔母おして
九女今上帝の生父慈禧親王の妹なるシウウ、チユ
此程北京の宮城にて薨去したりと云ふ
○制度取調局 伊藤、福岡の兩參議及作問、谷森
肥官の今度制度取調局の公及取扱方法及事務
兼掛を命せられ井上參事院官の制度取調局幹
るべき旨此從内沙汰ありしやの傳あり
○德大寺侍從長 同君おは轉任以來病氣にて引
が病氣全快して一昨日より出勤せらるるといへり
○杉宮内大輔 同大輔一昨日繪巻共進會審査
されたり
○鍋島幹君 鍋島元老院議員は養世の喪より
來る五月廿八日まで引の由
○森全權公使 同公使が歸朝に途に就きさると
上に掲げたりしが既に香港に着し去る八日同港
る官全所領事代理田實一氏より電報ありたり
○布哇公使 布哇國特派全權公使は實地官一名
八日横濱へ來着し昨日直に出京せしは付宮内
料比馬車を新橋停車場へ運送になり且つ杉宮内
出迎はれたり又昨夜午後六時より宮内外務兩
出候の上同氏を鹿鳴館に招待して饗應を盡した
○三縣縣令の遊路見分 三縣縣令木縣令が
地字都宮へ着しさる由之前を考ふ記せしが同氏
へ地とるや否風雨を厭ふ旅裝の儘直に馬車を
て市中道路の修繕せし箇所を限なく見分せしと云ふ